

あいさつ

初代校長 飯田 宣男

待望久しかった、下瀬谷中学校の校舎が落成しました。南瀬谷中学校から独立し、ひとり歩きをする時がきました。巣立ちの時です。

署名運動、用地獲得、開校、落成と、多数の方々が費したエネルギーは測り知れません。私達はその莫大なエネルギーに応じて、教育内容の充実と発展に努力しなければなりません。

本校はまだ伝統というものを持ちません。若さにあふれる学校です。若いということは、旺盛な行動力を発揮します。若いということは、無限の可能性を持っています。行動することが可能性を引きだすのです。新鮮な校風もこういったなかから生まれてくると信じます。

本校に学ぶ生徒は二十一世紀に生きる若者です。国際化社会、情報化社会、高令化社会の顕著化と減速経済や経済摩擦を重ねると、前途は楽観を許さないというより困難を想定しなければなりません。その困難を乗り越え、二十一世紀に生きるため何を身につけさせ、何を教えておくのか、私達は未来社会をしっかりと見究めて、指導する責務があります。

私達の城はできあがりました。あとは魂を入れなければなりません。どんなに優れた施設設備も活用の仕方によって、学習効果をあげる場合もあれば、宝の持ちぐされに終ることもあります。活かすにはどうすればよいか、効果をあげるにはどうすればよいか、考えて使わねばなりません。

更に、これからの学校は、地域との連帯のなかで発展充実してゆきます。開かれた学校として、積極的に地域と手を結んでゆかねばなりません。地域と PTA そして教職員の協力、協業の態勢が望まれるわけです。

最後に、今日まで、時間を忘れ仕事をなげうち、本校の誕生に尽力下さった大勢の方々、伝来の土地を提供下さった方々に、心から感謝申しあげて、あいさつといたします。

「校舎落成記念」誌より

